各データセットにおいて、PCAを適用し次元圧縮を行い2次元グラフに可視化した図およびC=3でRCCMM法を適用、ラフメンバシップ値で色分けした図を以下に示す。

結果から分析できる点：

1. Needs、二値化を行ったmovieLensは視覚的にはクラスター構造が確認できない
2. 二値化を行わないmovieLensはデータの散らばりが比較的大きいように見える

TODO: データの違いにおいても、考察を進める

* Needs-scan/panel

グラフ, 散布図

自動的に生成された説明

図1：PCAにより2次元圧縮しプロットしたneeds-scan/panel

グラフ, 散布図

自動的に生成された説明

図２：C=3でRSCCMM法を適用し、ラフメンバシップ値で色分けした結果

auc: 0.8515453684630208、delta: -6.0

（delta: [-5, -5.5, -6, -6.5, -7, -7.5, -8, -8.5] 各10回試行の中からaucが最大であった結果を採用）

* 二値化したmovieLens

グラフ, 散布図

自動的に生成された説明

図3: PCAにより2次元圧縮しプロットした二値化したmovieLens

グラフ, 散布図

自動的に生成された説明

図4: C=3でRSCCMM法を適用し、ラフメンバシップ値で色分けした結果

Auc: 0.7124551028552769, delta: -6.9

（delta: [-6.5, -6.7, -6.9, … -8.9]で 各10回試行の中からaucが最大であった結果を採用）

* 未評価値を各ユーザーの平均評価値で補完したmovieLens(※)

グラフ, 散布図

自動的に生成された説明

図5: PCAにより2次元圧縮しプロットした(※)

グラフ, 散布図

自動的に生成された説明

図4: C=3でRSCCMM法を適用し、ラフメンバシップ値で色分けした結果

auc: 0.7091151328700238, delta: -7.430

（delta: [-7.428, -7.429, -7.430, …, -7.432]で 各10回試行の中からaucが最大であった結果を採用）